

これまで日本音楽学校として積みかさね継続してきた教育研究という財産は、内外から高く評価されています。そういう財産があったから大学を作ったかどうかという意見をいただけてきました。それで一昨年、三浦理事長は意を決し、有明への進出を決定されたのです。

私たちは同窓生諸君や学生諸君の努力に感謝しています。諸君の人格と行動が日本音楽学校の評価となってきたのです。それが多くの識者や関係者から認められ、新しい教育に挑戦しなさいという応援の声となって高まったのです。新しい短大は絶対にすばらしい学校にしなければなりません。日本に、アジアに、ということは世界に一つしかない個性的な短大でなければなりません。優秀な学者、芸術家、研究者が集まってきてくれています。国内のみならずヨーロッパからも2名の大学教員が就任します。

日本音楽学校の伝統を継承しつつ、世界に唯一の短大を作りたいと考えています。

## 第6話「保育研の評価、過去と互角に持ち直した」

2年生の作品の舞台稽古を見せてもらったとき、ある種の危うさを持っていると感じました。競争が少なく、芝居と音楽と踊りをない交ぜにした作品を器用に作り上げる才能のある出演者たち、絶妙なパワー・バランスの上によって作られた作品を見たとき、ダメ出しはたいへん難しいと直感しました。学生が、ダメ出しを聞くものの、考えたり取り入れたりする余裕がないような状態のとき、踏み込んだ意見を言わないほうがいいのではないかと、私も弱気にさえなります。そんなとき私の中のもう一人の私が「正直に言え。イイならイイ、ダメならダメと言え。学生を信頼するのだ。」とささやきます。

苦言を呈したチームの諸君、子どもに向かって語り、歌い、踊ることが出来ました。子どもと真摯に向かい合うことが出来ました。他の作品も、パワーからアンサンブルを大切にする作品を作るように変化してきました。新しい傾向です。展示、口頭発表ともに日本音楽学校の品格が出てきました。先輩から受け継いで大切に育ててきた品位です。学生も教職員もこの品位を大切にようではありませんか。



### ◀1~3月の行事予定▶

#### 1年生

2008/1/7(月)	授業開始
12(土)	補講日
14(月)	成人の日(休校)
16(水)	実習リエンション(保幼)
21(月)~25(金)	後期試験
28(月)~2/1(金)	追再試期間
2/4(月)~8(金)	幼稚園実習(保幼)
12(火)~13(水)	幼稚園延長実習予備日(保幼)
14(木)~15(金)	幼稚園実習事後指導日(保幼)
18(月)~28(木)	保育園実習(保幼)
29(金)・3/3(月)	保育園延長実習予備日(保幼)
3/4(火)	保育園実習事後指導日(保幼)
5(水)	保育園実習事後指導日(保幼)
	卒業式リハーサル
6(木)	卒業式

#### 2年生

2008/1/7(月)	授業開始
12(土)	補講日
14(月)	成人の日(休校)
21(月)~25(金)	後期試験
28(月)~2/1(金)	追再試期間
3/5(水)	卒業式リハーサル
3/6(木)	卒業式



行事予定は追加・変更になることがありますので学内掲示等に注意して下さい。



学園記念ホール  
ステンドグラス



Information From

Nichi-On

since 1903

— 創立105周年 —

The Campus News

1月号  
2008. 第135号

日本音楽学校 幼児教育科 学生向情報



明けましておめでとうございます

学校長

小林 志郎

新年明けましておめでとうございます。

年の初めには、どこの校長も学生諸君に向かって楽しい話を書きたいと願っています。とはいえ、校長には楽しい話などないものです。校長らしい話のテーマや内容に振り回されるからでしょう。昨年は仕事に追われて、諸君と話す機会が少なかったと反省しています。今年は更に忙しいに違いありませんが、お茶を飲んだり、会食をしたいと考えています。そういうきっかけになればと、いくつかの話題を提供します。その話題に目次をつけました。



- 第1話「天は二物を与えず…補習・スピーチの学習と紙芝居」
- 第2話「音楽セラピーと美術セラピーを両方聴いたすごい人」
- 第3話「タバコの煙が目にしみた」
- 第4話「ロンドンへ連れて行きたい」
- 第5話「有明の短大はすごくなると信じている」
- 第6話「保育研の評価、過去と互角に持ち直した」

## 第1話「天は二物を与えず・・・補習・スピーチの学習と紙芝居」

後期の補習《表現・スピーチ》を担当しました。第1日目、やはり学生が来ていない。心の中で、「私は学生に受け入れられていないんだ。」と苦悩しました。動揺を隠してひたすら明るくスピーチの組み立て方を話しました。学生諸君の反応のよさ、話題の豊富さに我を忘れました。それでも時々起きる私語、無駄話に「しゃべる前に聞け。君の私語は私たちに対する挑戦なのだ。聞け、それからしゃべれ。」と言い続けていました。

第2日目、やや集まりがいいようでした。杉本先生と山本先生の根回しかもしれない。スピーチはなかなかいい。いやすごいい。文章を書くのが苦手だが、考えをまとめて話す才能はなかなかある。書くのと話すのは、別の才能です。しかし、どこへ行っても文章は書かなければいけません。とくに実習では日誌という難業があります。今回のスピーチのトレーニングは、頭の中で文章を考えて書くことから、頭の中で話す内容を考えてスピーチをすることまで、表現に大切な事柄を網羅するものでした。

補習《表現・スピーチ》受講生の諸君、絶対味のある、観点の優れた文章が書けるでしょう、努力すれば。諸君のスピーチは心を打ちました。それに紙芝居の即読力と理解の速さ！難しい紙芝居に切り替えたのは快挙です。

最後に、文章を恐れてはいけません。でも舐めてもいけません。



## 第2話「音楽セラピーと美術セラピーを両方聴いたすごい人」

芸術セラピーは、日本音楽学校だけが提供している特別授業です。他の保育者養成校、短大、大学でも、日本音楽学校でやっているような本物の講義を受講できません。二人の英国人教師は理論を噛み砕き、平明に語り、おもしろいエクササイズを取り上げてくれました。しかし、あの授業は大学院でセラピーを学ぼうとする一年生に体験させる授業なのです。私の仲間の日本人も英国の大学でああいう授業を受け、後に大家になったのです。みなさんはそういう大家と同じ授業を聞いているのです。

諸君はノルマのような諸課題に追われています。保育の現場ですぐ役立つ知識、技術を何よりも欲しています。芸術セラピーはちょっとおもしろいが、保育の中でどう使えるのか分からない存在ではないでしょうか。卒業後10年位経って、どうしても解決できない問題に直面したとき、芸術セラピーのことを思い起こすかもしれません。そして改めて勉強し直すきっかけが生まれます。21世紀の教育や保育のキーワードは「セラピー」だと私は信じています。ごくごく少数の学生が美術セラピーと音楽セラピーの両方を受講しました。宝物を見分ける眼力があった人です。真に「目力（メジカラ）」のある人たちです。



## 第3話「タバコの煙が目にしみた」

今から6年前、喫煙は別の面から問題を起こしていました。社会全体としても禁煙への取り組みが甘かったので、学生だけが禁煙という理論は説得力に欠けていました。「キャンパス内禁煙です。学校近辺も禁煙です。」という規則は空文化するものです。学生たちはキャンパス内では喫煙しませんが、教職員の目が届かないと判断した場所でタバコを吸っていました。私もかつてはタバコを吸っていましたから、喫煙後のタバコを地面に捨て、靴で踏んで立ち去るのは自然の流れでした。タバコの吸殻を携帯灰皿に入れて持ち帰る文化はなかったのです。

学校の周辺のタバコ・スポットは吸殻と、若いスモーカーが群れる「悪場所」となり、しばしば学校にお小言の電話が入りました。今思い起こすと、学校の指導に落ち度があったのです。「キャンパス内禁煙です。学校近辺も禁煙です。」という指導を受けたら、当然取締りの目が届かないキャンパスの外でタバコを吸うでしょう。近隣の方に迷惑をかけない、近辺の方に愛される学校になるためには、「外で吸うな。どうしても吸うなら学内で吸え。」という指導でなければなりません。その上で、可能な限りの知恵を集積して禁煙に取り組むのが正論ではないでしょうか。

ともかく、喫煙学生との数度の話し合いの結果、禁煙文化にチャレンジしました。諸君の先輩は、最初はしぶしぶ、やがて2年経つとかなり真剣に、禁煙に挑戦し、学友も応援するようになりしました。

パリも今年の2月から禁煙です。反対意見が沸騰しているようです。エゴイスト集団のフランス人が禁煙できるのでしょうか。恐らくできるでしょうね。



## 第4話「ロンドンへ連れて行きたい」

3月に行く予定だった海外研修旅行は、人数が集まらないため中止になりました。昨年度までオーストラリアのシドニーとメルボルンの保育園、幼稚園（プレ・スクール）、小学校、高校、大学などを訪問してきました。日本音楽学校の海外研はすべての園でフリーパスでした。保育士を目指す学生であることを知って、何の制約もありませんでした。英語が不得意な日本人学生が、子どもと歌い、踊り、手遊びをし、折り紙をし、紙芝居を見せ、保護者や先生と一緒にランチ・パーティをすることが出来ました。二人の市長さんがパーティに参加しました。5年も続くと先生も子どもも学生たちとの遊びを楽しみにしてくれるようになりました。

しかし、先方の責任者も疲れしました。私たちも疲れしました。そこで海外研の目的地をイギリスに変えて、心機一転を図ろうと考えました。ロンドンの二人の友人に電話しました。二人とも教師です。早くコーディネータを引き受けてくれました。一人はオーストラリアの演劇の先生チャールス・スルーキーの友人で、日音の研修方法を良く知っていました。教育委員会や学校・園を訪ねて私たちの受入れを交渉してくれました。しかし参加者が少ないため今年は断念しました。

歴史がある国、教育や福祉が見える国、そして島国であるイギリスはおもしろい。ロンドンと奈良と東京が一つになったような都市で、教育もファッションも伝統と斬新さが同居しています。高級そうな幼稚園があれば、庶民的な保育園があります。園で子どもと遊び、バッキンガム宮殿の衛兵、ビッグベン、ロンドン塔、ボンド・ストリート、グローブ座、ロイヤル・オペラ・ハウス、ハイド・パーク、リージェント・パーク、大英博物館、ナショナル・ギャラリーなど東京と京都・奈良を走り回るような興奮を与えてくれます。いつか諸君と行きたいと思っています。

## 第5話「有明の短大はすごくなると信じている」

平成21年4月に、日本音楽学校は有明キャンパスに移転します。現在の1年生は来年度も豊町のキャンパスで勉強し、卒業することが出来ます。しかし4月に入学する新1年生は、2年生になると有明キャンパスへ移って勉強していただきます。

さて有明に短大を作る話は諸君も聞いているでしょう。「日本音楽学校が短大になるのですか」と質問を受けます。短大には「子ども教育学科」と「芸術教育学科」の2学科を設け、「子ども教育学科」で幼児教育者を養成することになります。しかし短大は、新しく作る全く別の学校です。日本音楽学校の先生方も新しく出来る大学の教員としての資質能力があるか、設置審査委員の審査を受けます。非常に厳しい試験に合格しなければなりません。

